

女子大生の体型と着装に対する意識と実態 (第3報)

—ダイエット意識と着用画像評価との関係—

三木 幹子*, 植木 由香**, 池田 並穂***,
本永恵理華****

(2013年11月13日 受理)

Female College Students' Consciousness toward Body Shape and Dressing, and Their Actual State (Part. 3)

— Relationships between Consciousness about the Dieting and Evaluations
with Images of Those Who Are Wearing Clothes —

Motoko MIKI*, Yuka UEKI**, Namiho IKEDA***,
Erika MOTONAGA****

An attitude survey with female university students was conducted on body shapes and dieting. Through a visual sensory test with 30 images of those who are wearing clothes, the relationships to the attitude survey were clarified as below.

Evaluators who suppose that slim people are more beautiful evaluated that loose clothes would be “good body shapes.” Evaluators who are sensitive to others’ evaluations had a wish that slim females should “look fatter.” In addition, evaluators who are not proud of their body shapes evaluated that the clothes to make slim models look even slim “good body shapes.”

1. はじめに

第1報(三木等2012)において筆者らは、女子大学生および男子大学生を対象に、体型およびダイエットに関する意識調査を行い、男女の意識の違いを明らかにした。また、第2報(三木等2013)においては、体型が異なる女性の着用画像を用いて視覚官能評価を行い、服のデザインと、着用者のスタイル評価との関係について考察を行った。

女子大生のダイエット志向には、痩せていることが美しいという価値観が根底にある。洋服を着用する際も、いかに身体が細く見えるかを考慮して服を選んでいる。自分以外の女性を評価する際も、服装を含めた視覚的な

外見が細いかどうかスタイルの良さの基準となっているようである。

それでは、女子大生の痩せ志向や理想体型、また他人の体型に対する意識の強さの違いによって、服着用画像の評価に違いが生じるのだろうか。

そこで本研究では、女性被験者について、女性のダイエット意識の違いが、服着用画像の評価に与える影響について検討を行う。

2. 調査方法

- 1 調査時期 2010年6月および2011年9月
- 2 調査対象 被験者は女子大学生58名
- 3 調査内容

(1) 体型およびダイエットに関する意識調査

自分の体型や、ダイエットに関する意識質問を28項目設定した。評価にはSD法を用い、各項目について「そう思う」「ややそう思う」「どちらでもない」「あまり思わない」「全く思わない」の5段階で回答してもらった。評価に用いた質問項目は表2参照。

* 広島女学院大学人間生活学部生活デザイン・建築学科教授

** 広島女学院大学生生活科学部生活デザイン・情報学科元実験実習助手

*** 広島なぎさ中学校・高等学校非常勤講師

**** 広島女学院大学生生活科学部生活デザイン・情報学科2010年度卒業生

表1 モデルA～Eの体型および身体計測値

	モデル A	モデル B	モデル C	モデル D	モデル E
体 型	標準体型	短身／やせ	中背／肥満	長身／やせ	長身／過体重
身長 (cm)	154.5	149.1	155.2	168	165.8
体重 (kg)	47.3	35	72.6	50	66
バスト (cm)	80	69	94	77	92
ウエスト (cm)	61	57	78	65	76
ヒップ (cm)	92	78	103	90	101

表2 因子分析 (意識調査)

因子負荷量：回転後 (バリマックス法)

変 数 名	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子
	痩せ願望と理想体型の固定概念	他人意識 (評価・体型比較)	ダイエットに対する諦め意識	ふくよか体型の肯定	体型への満足と自信
話題になったダイエットは試してみたい	0.6282	0.1898	0.1938	-0.0766	0.0011
お姫様だっこできない女性はやせた方がよい	0.6248	0.0977	0.0511	0.2492	-0.0696
お金がかかってもやせたい	0.6212	0.1908	-0.0210	-0.0895	-0.2525
やせたらモテると思う	0.5875	0.1309	0.1624	-0.2755	-0.0878
きれい=やせている	0.5192	0.3735	-0.2002	-0.3296	-0.1361
服選びの時にやせて見えるかどうかを重視する	0.5073	0.3365	0.2845	-0.0410	0.0885
腰のくびれがない女性は魅力的ではない	0.5016	0.1110	-0.1428	0.3410	-0.2245
満員のエレベーターに平気で乗れる	-0.2792	0.2509	-0.0657	-0.0144	0.0939
自分の体型と人の体型を比べてしまう	0.1706	0.6836	0.1250	0.0269	-0.2146
外出時に鏡やウィンドウに写った自分を見てしまう	0.2640	0.6761	0.0730	0.1070	0.0057
他人が自分の体型をどう思っているのか気になる	0.2317	0.6333	0.2872	-0.0529	-0.2190
異性の体型が気になる	0.0881	0.6329	0.0531	-0.0618	0.0475
人から体型のことを指摘されると腹が立つ	0.1092	0.4985	0.2751	0.0055	0.1134
自分の家族の体型が気になる	0.0106	0.4881	0.2733	0.1101	-0.3713
体型がわからない服を着るようにしている	0.0957	0.2714	0.5930	-0.0128	-0.2141
自分は水を飲んでも太る体質だと思う	0.3412	0.2380	0.5311	-0.0655	-0.3070
年をとったらやせ願望が薄れると思う	0.2031	0.1760	0.5007	-0.0555	0.0227
強い目的意識がないとダイエットをしようと思わない	0.1000	0.2876	0.4573	0.2030	-0.0625
たとえ太っても食べる楽しみには勝てない	-0.1095	-0.0062	0.4317	0.0567	-0.0337
ふくよかな人はやさしいイメージがある	0.0195	0.0637	-0.4014	0.3774	-0.3295
細い男性は頼りない	0.1479	0.0304	0.1383	0.6554	0.0078
ガリガリにやせるくらいなら太っている方がいい	-0.2721	0.0481	0.1837	0.5239	-0.1288
女性はぽっちゃりしている方が女らしい	-0.0311	-0.1476	-0.0236	0.4807	0.0613
好きな人なら太っていてもいい	-0.0375	0.1482	-0.1101	0.4217	0.1822
自分の体型に満足している	-0.1336	-0.0398	-0.0410	-0.0416	0.6007
効果が出るなら苦勞してでもやせたい	0.2673	-0.0263	0.3058	-0.1585	-0.5267
「やせたい」という人に限って太っていないと思う	0.2734	0.1284	0.3418	0.0681	0.3883
自分の体重やスリーサイズを人に言える	-0.2361	-0.1852	-0.0889	0.1915	0.3527
固有値	3.0519	2.9881	2.1960	1.7851	1.6301
寄与率 (%)	10.9	10.7	7.8	6.4	5.8
累積寄与率 (%)	10.9	21.6	29.4	35.8	41.6

モデルA



A①

A②

A③

A④

A⑤

A⑥

モデルB



B①

B②

B③

B④

B⑤

B⑥

モデルC



C①

C②

C③

C④

C⑤

C⑥

モデルD



D①

D②

D③

D④

D⑤

D⑥

モデルE



E①

E②

E③

E④

E⑤

E⑥

写真1 画像試料 (モデル A ~ E, 服①~⑥着装写真)

表3 因子分析 (画像評価)

因子負荷量: 回転後 (バリマックス法)

変数名	第1因子	第2因子
	総合的なスタイルの良さ	女性としての魅力
手足が長く見える - 手足が短く見える	0.6536	0.1593
似合っている - 似合っていない	0.7802	0.1911
スタイルがよく見える - スタイルが悪く見える	0.8099	0.1795
やせて見える - 太って見える	0.6782	-0.0636
体型がカバーできる - 体型がカバーできない	0.6379	-0.1783
魅力がある - 魅力がない	0.7890	0.2441
背が高く見える - 背が低く見える	0.6094	0.1670
男性に受けがよい - 男性受けが悪い	0.6654	0.4320
胸が強調される - 胸が強調されない	0.2283	0.6548
めりはりがある - めりはりが無い	0.4783	0.5763
胸が大きい - 胸が小さい	0.0360	-0.1326
固有値	4.2775	1.1826
寄与率 (%)	38.9	10.8
累積寄与率 (%)	38.9	49.7

(2) 着用画像の視覚官能評価

着用モデルとして、身長と体型が異なる学生5名を選出し(モデルA~E)、デザインが異なるワンピース6種(服①~服⑥)を5名のモデルが着用した画像試料30種を視覚官能評価に用いた。モデルの身体計測値を表1に、着用画像(モデルA①~モデルE⑥)を写真1に示す¹⁾。

女性の体型やスタイルに関する評価項目(形容語対)を11組選定し、各画像試料の視覚評価を行った。評価にはSD法を用い、各項目について「そう思う」「ややそう思う」「どちらでもない」「ややそう思う」「そう思う」の5段階で回答してもらった(評価に用いた形容語対は表3を参照)。

3. 結果・考察

(1) 因子分析(意識調査)

女子大学生の体型とダイエットに対する意識の基本因子を抽出するために、28個の質問項目を変数に、被験者58名の全評価を観測回数として因子分析を行った。評価値は「全く思わない」から「そう思う」までを各1~5点として換算した。因子分析には主因子法を用い、バリマックス回転法により、軸回転後の因子負荷量および各被験者の因子得点を求めた。

因子分析を行った結果、表2に示すような5因子が抽出された。因子負荷量より各因子の意味を検討した結果、第1因子は、「きれい=やせている」「お金がかかっ

てもやせたい」「話題になったダイエットは試してみたい」「やせたらモテると思う」等の因子負荷量が高い値を示していることから、「痩せ願望と理想体型の固定概念の因子」と解釈した。

第2因子は、「自分の体型と人の体型を比べてしまう」「外出時に鏡やウィンドウに写った自分を見てしまう」「他人が自分の体型をどう思っているのか気になる」等の因子負荷量が高い値を示していることから、「他人意識(評価・体型比較)の因子」と解釈した。

第3因子は、「体型がわからない服を着るようにしている」「自分は水を飲んでも太る体質だと思う」「強い目的意識がないとダイエットをしようと思わない」等の因子負荷量が高い値を示していることから、「ダイエットに対する諦め意識の因子」と解釈した。

第4因子は、「細い男性は頼りない」「ガリガリにやせるくらいなら太っている方がいい」「女性はぽっちゃりしている方が女らしい」等の因子負荷量が高い値を示していることから、「ふくよか体型の肯定の因子」と解釈した。

第5因子は、「自分の体型に満足している」「効果が出るなら苦勞してでもやせたい(マイナス値=やせたくない)」等の因子負荷量が高い値を示していることから、「体型への満足と自信の因子」と解釈した。

(2) 因子分析(画像評価)

女子大学生の着用画像に対するイメージの基本因子を抽出するために、11個の形容語対を変数に、被験者58

名の30種の画像に対する評価を観測回数として因子分析を行った。因子分析には主因子法を用い、バリマックス回転法により、軸回転後の因子負荷量および各被験者の因子得点を求めた。

因子分析を行った結果、表3に示すような2因子が抽出された。

因子負荷量より各因子の意味を検討した結果、第1因子は、「手足が長く見える—短く見える」「似合っている—似合っていない」「スタイルがよく見える—悪く見える」「やせて見える—太って見える」「魅力がある—ない」等の因子負荷量が高い値を示していることから、“総合的なスタイルの良さの因子”と解釈した。

第2因子は、「胸が強調される—されない」「めりはりがある—ない」の因子負荷量が高い値を示していることから、“女性としての魅力の因子”と解釈した。

(3) 因子得点の分布（体型意識と画像評価との関係）

被験者の体型およびダイエットに関する意識が、着用画像の視覚評価にどのような影響を与えるかについて検討するため、各意識の因子分析結果を画像評価の因子得点分布に反映させ、両者の関係を考察する。

全被験者のうち、意識調査で抽出された各因子の因子得点が、平均値+1標準偏差より大きい人を「意識がプラスの被験者=意識(+)」とし、反対に因子得点が平均値-1標準偏差より小さい人を「意識がマイナスの被験者=意識(-)」と定義する。

着用画像の因子得点から「意識がプラスの被験者」の因子得点と、「意識がマイナスの被験者」の因子得点を抜き出し、それぞれの平均値を算出し、因子得点の分布図上に異なる記号を用いて表示した(図1~図6)。

1) 「痩せ願望と理想体型の固定概念」と画像評価の関係

図1-1, 図1-2は意識調査の第1因子である「痩せ願望と理想体型の固定概念の因子」と、画像評価の第1因子(総合的なスタイルの良さの因子)と第2因子(女性としての魅力の因子)との関係を表した分布図である。意識がプラスの被験者とマイナスの被験者間に有意差($p < .05$, p ; 危険率)が見られた画像(画像評価の因子)は、A⑤(第1因子, 第2因子), B②(第1因子), C②(第2因子), C③(第1因子), D②(第2因子), E②(第2因子), E③(第2因子)であった。

意識(+)の被験者の方が意識(-)の被験者よりも、画像A⑤を「スタイルがよい」と評価しており、また「胸が強調されていない」と判断している。すなわち、痩せていること=美しいという意識が強い被験者は、標準体型のモデルAが、身体シルエットが認識しにくいゆとり量が多い服を着た場合、「スタイルがよい」と

評価しているということである。その理由として、胸の大きさが強調されていないことが要因となっていると思われる²⁾。

画像B②は意識(+)の被験者の方が意識(-)の被験者よりも第1因子が高く、「痩せて見えてスタイルがよい」と評価している。これはB②が肩から上肢の部分が露出しており、モデルBの痩せ型体型をより細く強調しているためであると思われる。

画像C②は意識(+)の被験者の方が第2因子が高く、画像C③は意識(+)の方が第1因子が高くなっている。C②の服装は胸を強調することから上半身の太さを意識させており、またC③は黒ベルトでウエストを細く見せた服装であることから、痩せ願望が強い被験者から「スタイルがよい」と評価されたのではないかと考える。

画像D②もまた、意識(+)の被験者の方が第1因子が高い結果となった。長身痩せ体型のモデルDの場合、服②の胸を強調する効果よりも、ロング丈による縦長効果の方が、より体型を細長く見せることに繋がったことが要因と思われる。

画像E②は意識(+)の被験者の方が第2因子が高くなっているが、画像E③は反対に第2因子が低くなっている。痩せ志向の強い意識(+)の被験者にとっては、服②のように胸元を見せるよりも、服③のように胸を覆ってフリル装飾で誤魔化すデザインの方が、胸の大きさを強調せず痩せて見えると判断しているのではないだろうか。

2) 「他人意識(評価・体型比較)と画像評価の関係

図2-1, 図2-2は意識調査の第2因子である「他人意識(評価・体型比較)の因子」と、画像評価との関係を表した分布図である。意識(+)と(-)の被験者間に有意差が見られた画像は、A⑤(第1因子), B①(第2因子), B②(第1因子), B⑤(第1因子), B⑥(第1因子), D⑤(第2因子), E①(第1因子)であった。

画像A⑤は意識(+)の被験者の方が第1因子が高い。すなわち、常に自分と他人の体型を比較し、他者からの評価を気にする傾向が強い被験者は、そうではない(-)の被験者よりも、A⑤を「スタイルがよい」と評価していることになる。服⑤はどちらかという体型を隠し、太って見えてしまう服装であるが、意識(+)の被験者はそのような他者のスタイルに対して寛容であるといえる。

画像B①は、意識(+)の被験者の方が第2因子が高く、「胸が強調されている=太って見える」と評価している。モデルBのような小柄痩せ体型の人が、服①のよう

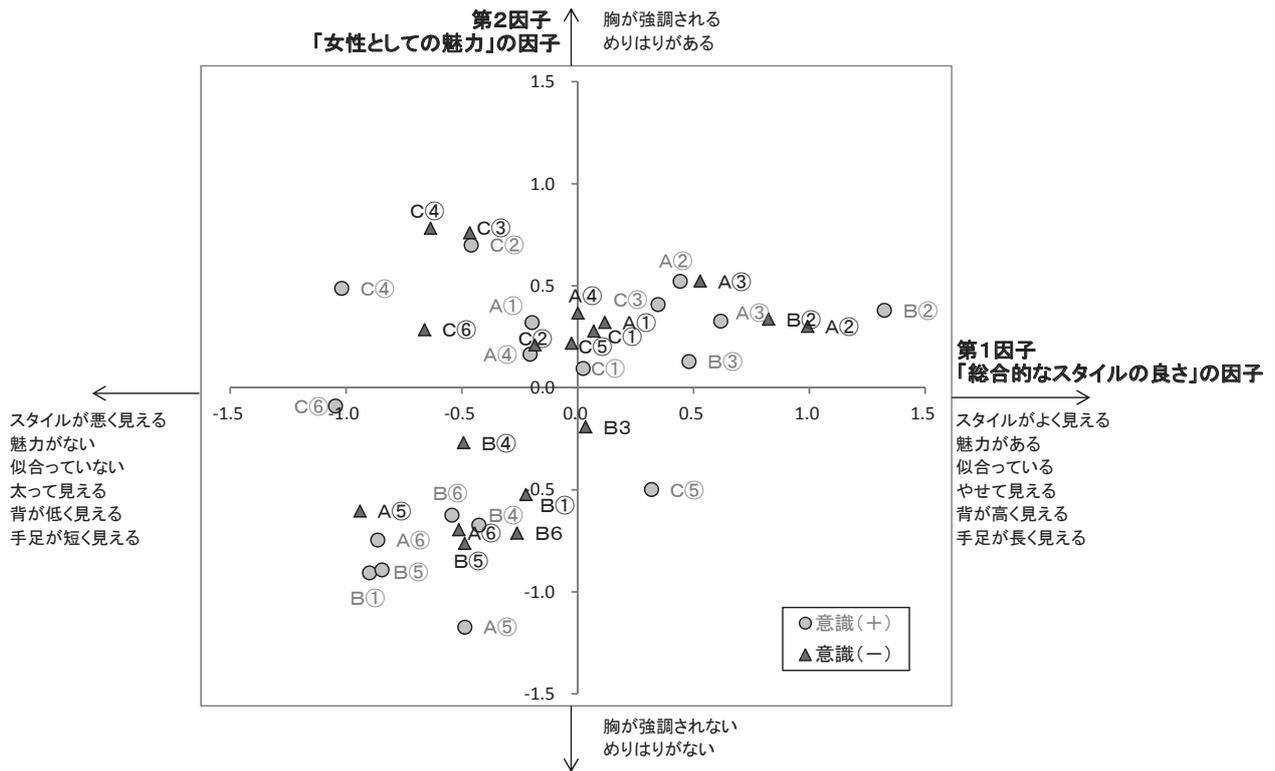


図1-1 因子得点の分布図（画像評価，第1因子と第2因子）モデルA～C
—意識調査第1因子「痩せ願望と理想体型の固定概念」の因子得点による比較—

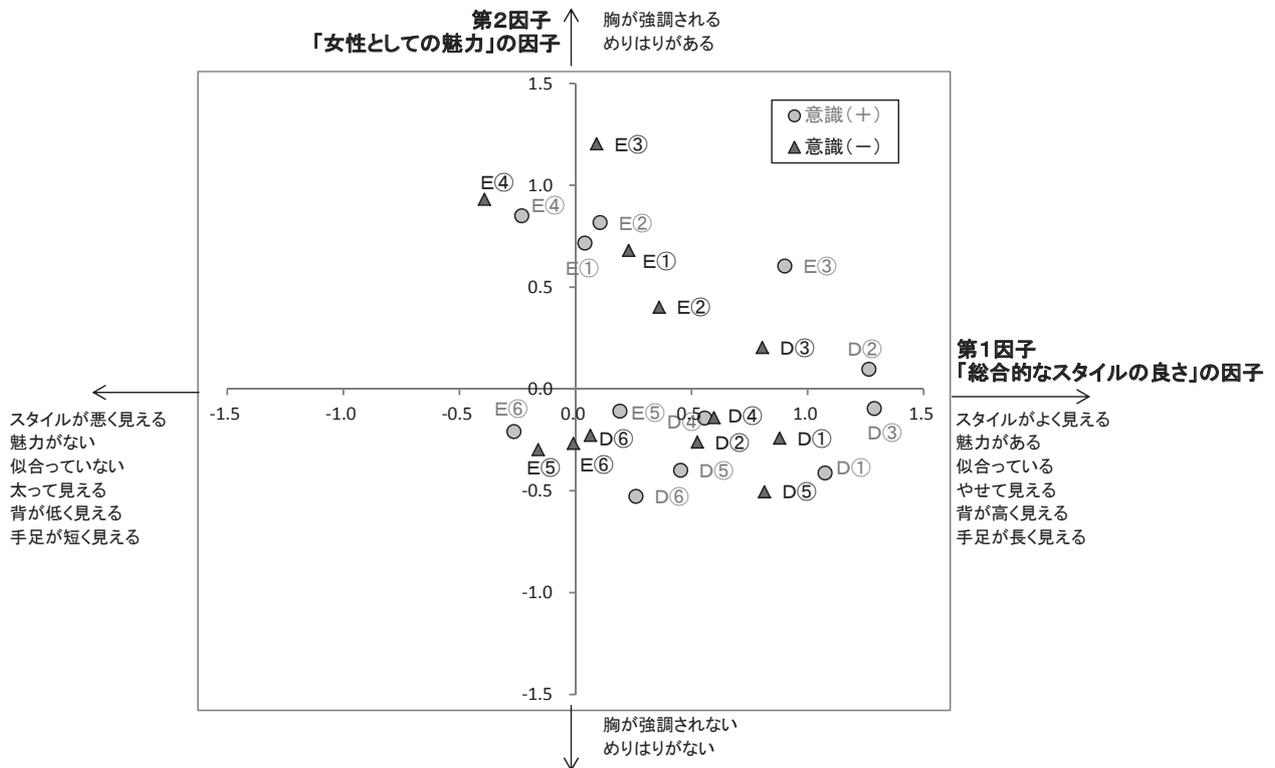


図1-2 因子得点の分布図（画像評価，第1因子と第2因子）モデルD, E
—意識調査第1因子「痩せ願望と理想体型の固定概念」の因子得点による比較—

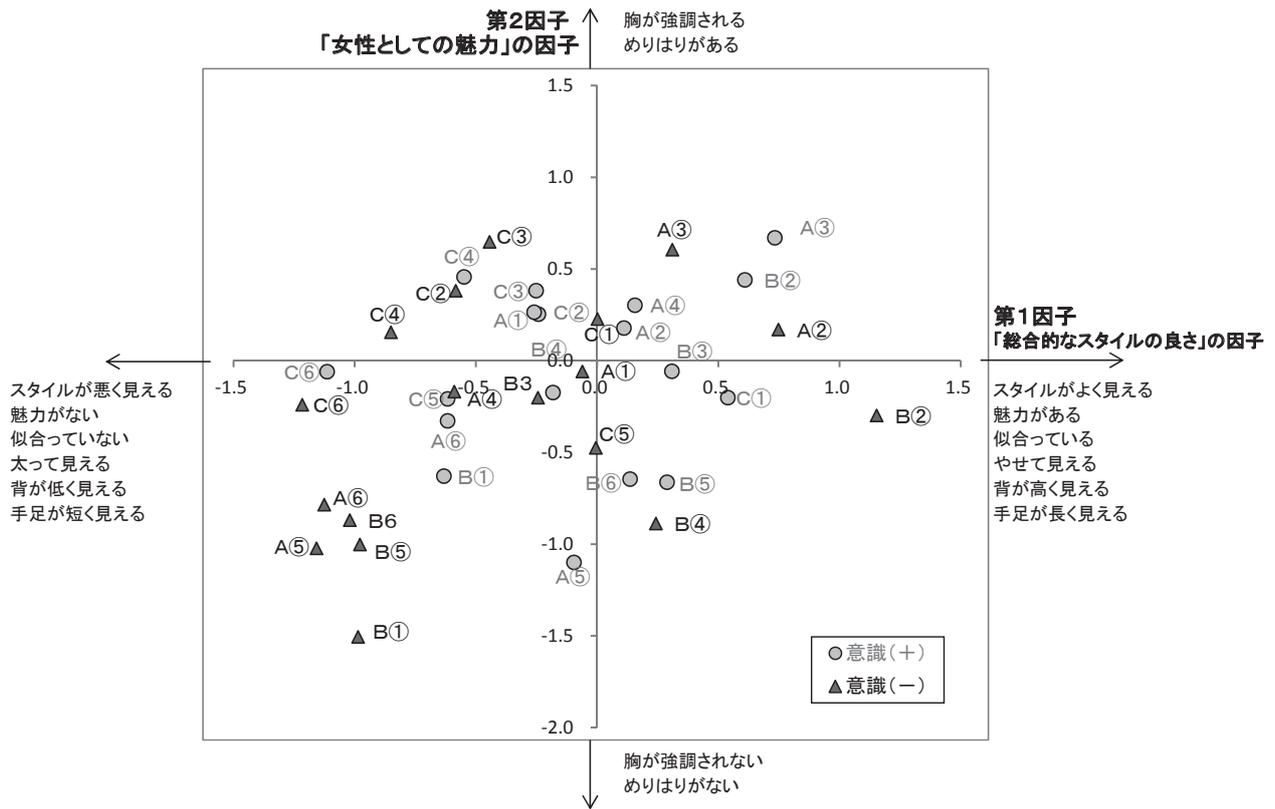


図2-1 因子得点の分布図 (画像評価, 第1因子と第2因子) モデル A ~ C
 一意識調査第2因子「他人意識 (評価・体型比較)」の因子得点による比較一

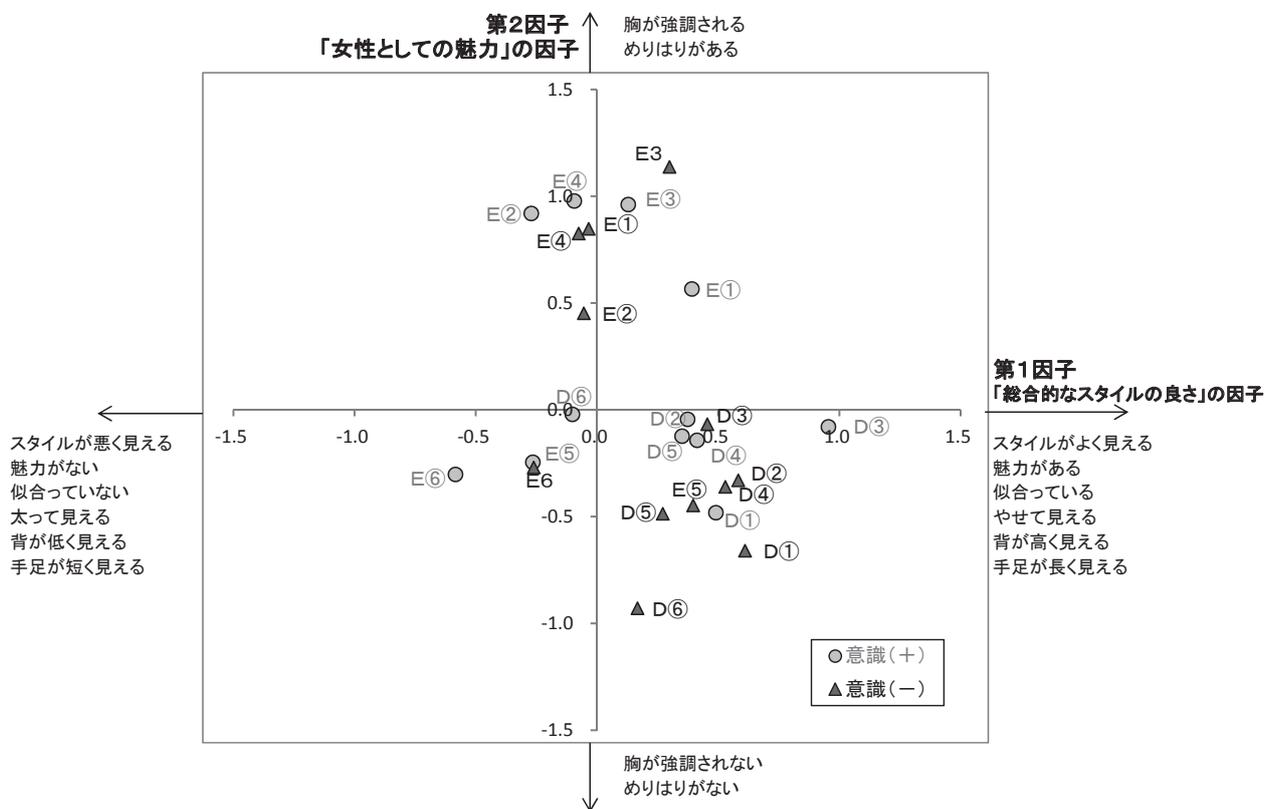


図2-2 因子得点の分布図 (画像評価, 第1因子と第2因子) モデル D, E
 一意識調査第2因子「他人意識 (評価・体型比較)」の因子得点による比較一

な黒一色の引き締め効果が高い服を着た場合、本来はさらに痩せて見えるはずであるが、他人の評価を気にする意識 (+) の被験者にとっては、こういう服装でさえ上半身が強調されているという評価になってしまうのである。

画像 B ②は、意識 (+) の被験者よりも (-) の被験者の方が第 1 因子が高く、「スタイルがよい」と評価している。意識 (+) の被験者が B ②を胸が強調され太って見える服装と捉えているのに対して、意識 (-) の被験者は胸が大きく見えることもスタイルの良さと捉えていることがわかる。

画像 B ⑤と B ⑥については、意識 (+) の被験者の方が第 1 因子が高い。これらの画像は、小柄なモデル B にとっては明らかにサイズオーバーな服装であると思われるが、意識 (+) の被験者にとっては「スタイルがよい」という評価になる。これは画像 A ⑤と同様、身体のラインが出ない服装をスタイルがよいと判断していることと、「ぶかぶかな着こなし」であっても「自分と比べればマシである」といった比較上の評価が加わっているのではないだろうか。画像 D ⑤についても、意識 (+) の被験者は第 2 因子が高く、細身の体型が隠れる服装を「メリハリがある」と評価している。

しかし、大柄でがっしり体型のモデル E の画像 E ①については、意識 (+) の被験者は「スタイルがよい (第 1 因子)」と評価しており、画像 E ②に対しても「胸が強調されている (第 2 因子)」と評価していることから、これらの画像に対しては客観的で適正な判断をしているようである。

このことから、意識 (+) の被験者、すなわち自分と他者を比較し、他人の評価を気にする被験者は、身長に関係なく痩せ体型のモデルに対しては、より細く見える服装を否定し、シルエットが隠れる服装を高く評価しており、反対に肥満や大柄体型のモデルに対しては平均的な評価をする傾向があるといえる。「自分よりも細い体型の女性には太って見える服を着て欲しい」という、複雑な女性心理が働いているのかもしれない。

3) 「ダイエットに対する諦め意識」と画像評価の関係

図3-1, 図3-2は意識調査の第 3 因子である「ダイエットに対する諦め意識の因子」と、画像評価との関係を表した分布図である。意識 (+) と (-) の被験者間に有意差が見られた画像は、A ③ (第 1 因子), A ⑤ (第 2 因子), A ⑥ (第 2 因子) であった。

意識 (+) よりも (-) 被験者の方が画像 A ③を「スタイルがよく見える」と評価している。意識 (-) の被験者は、常に強い意志を持ってダイエットに臨まなくて

はならないという意識が強いのに対して、意識 (+) の被験者は食欲を我慢するくらいならば、服装で体型を誤魔化す方がよいという価値観を持っている。A ③は標準体型のモデルが着用すると、上半身はフィットし下半身は緩やかに広がり、ベルトでウエストを細く見せる等、スタイルをよく見せる効果が高い服装である。したがって、ダイエット志向が強い女性にとっては理想的な服装であると思われるが、意識 (+) の被験者にとっては、この程度の着装効果では体型を十分にカバーできないだろうと捉えられたのではないかと考える。

画像 A ⑤と画像 A ⑥は意識 (+) の被験者の方が第 2 因子が高い。服⑤と服⑥はゆとり量が多く、標準体型モデルが着用すると寸胴体型の印象が強くなる。そのため意識 (-) の被験者、すなわちダイエット志向が強い女性にとっては、「女性らしさがない服装」と評価されている。しかし意識 (+) の被験者にとっては、むしろ本来の自分の体型を隠してくれる便利な服であると映ったことが要因だと思われる。

4) 「ふくよか体型の肯定」と画像評価の関係

図4-1, 図4-2は意識調査の第 4 因子である「ふくよか体型の肯定の因子」と、画像評価との関係を表した分布図である。意識 (+) と (-) の被験者間に有意差が見られた画像は、A ⑥ (第 2 因子), C ③ (第 1 因子), D ② (第 1 因子), D ③ (第 1 因子), D ④ (第 1 因子), D ⑥ (第 2 因子), E ② (第 2 因子), E ③ (第 1 因子) であった。

画像 A ⑥は意識 (-) の被験者の方が第 2 因子が高く、A ⑥を「胸が強調される = ふくよかに見える」と評価している。意識 (+) の被験者は女性の「ぽっちゃり体型」を肯定しているのに対して、意識 (-) の被験者は性別に関係なく痩せ体型をよしとしている。したがって、服⑥のように身体が膨張して見える服装に対して、意識 (-) の被験者の方がより周径やボリュームを感じ取ってしまっていると思われる。

画像 C ③は意識 (+) の被験者の方が第 1 因子が高く、「スタイルがよい」と評価している。肥満体型のモデル C の場合、他の画像では意識 (+) と (-) 被験者間で評価にあまり差が見られないが、スタイルがよく見える効果がある服③を着装した場合のみ、(+)(-) 両被験者間に有意な差が生じており、意識 (+) の被験者は「スタイルがよい」と評価している。このように、ふくよか体型を肯定する女性被験者は、肥満体型モデルの服による体型カバー効果の変化を見分ける能力を有していることが明らかとなった。

画像 D ②, D ③, D ④は意識 (+) の被験者の第 1 因

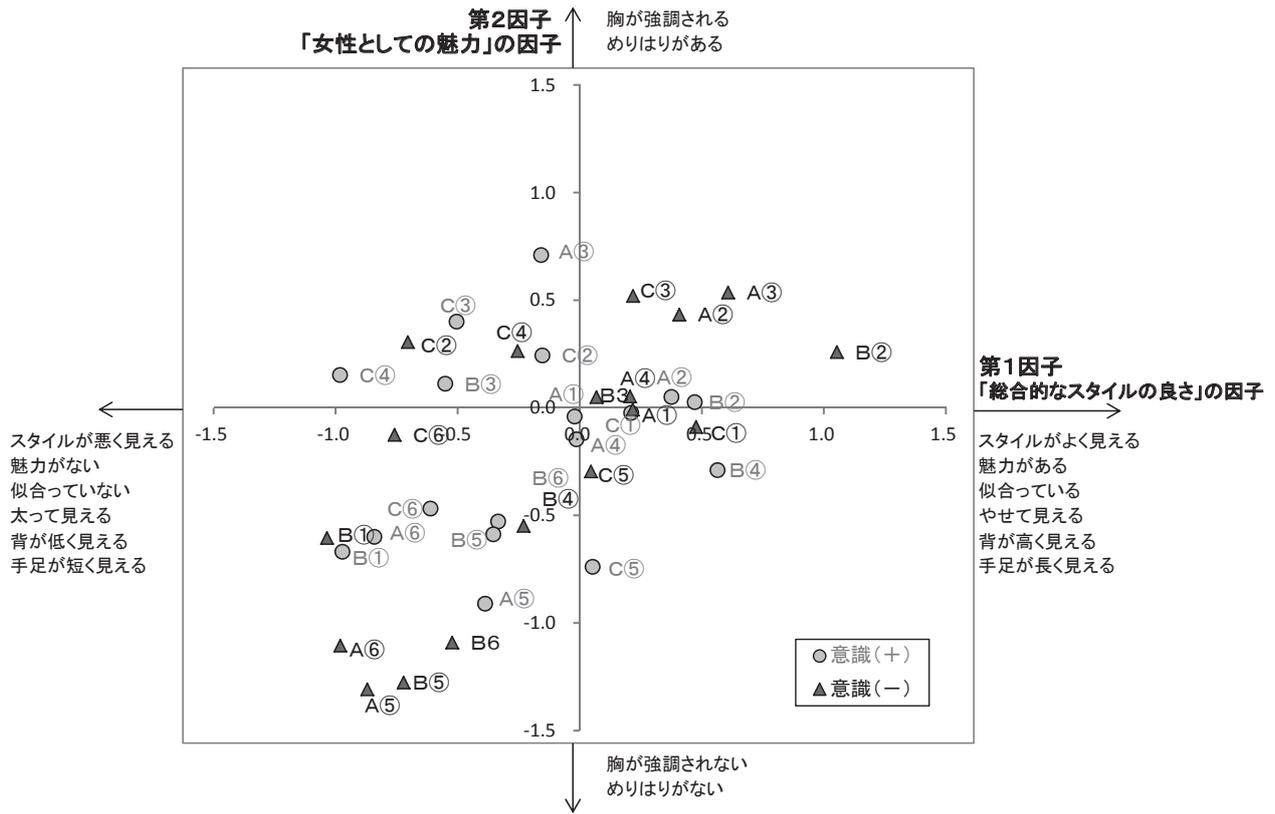


図3-1 因子得点の分布図（画像評価，第1因子と第2因子）モデルA～C
—意識調査第3因子「ダイエットに対する諦め意識」の因子得点による比較—

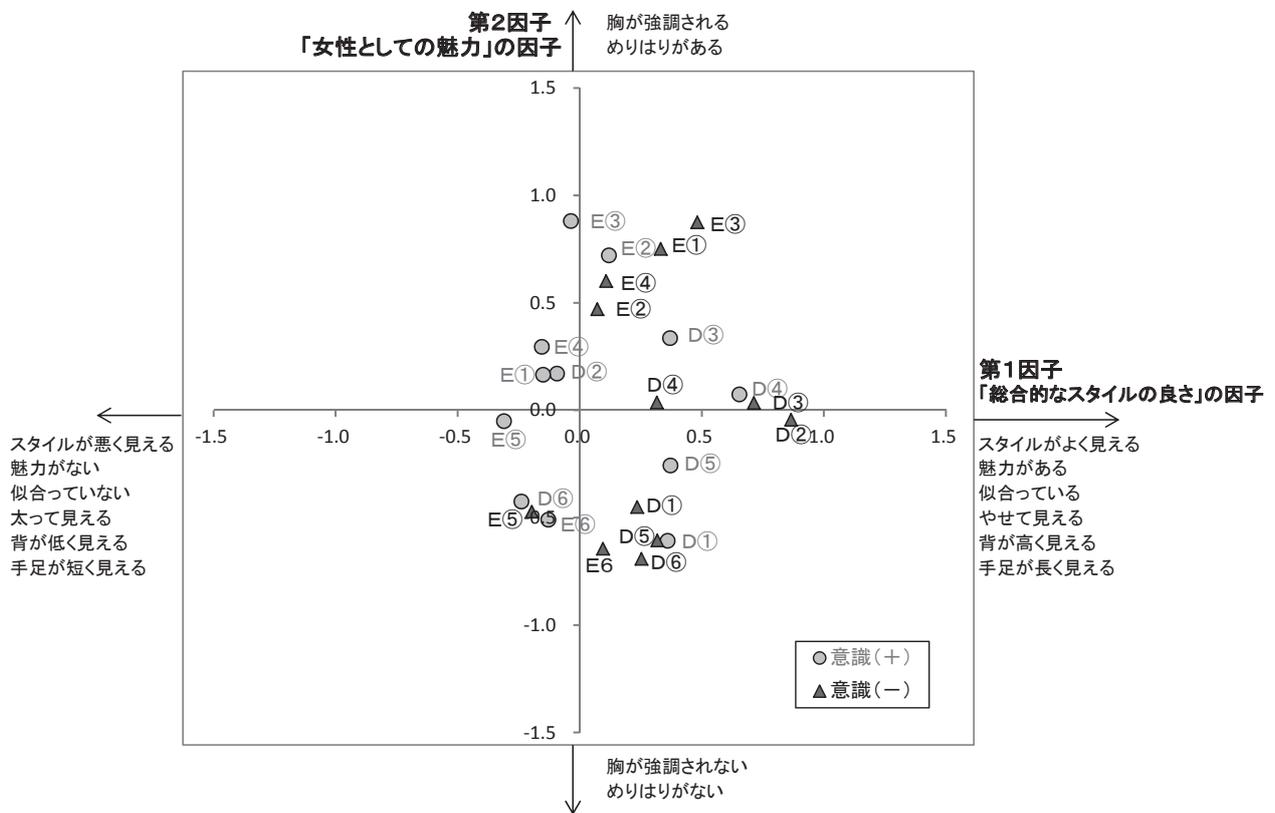


図3-2 因子得点の分布図（画像評価，第1因子と第2因子）モデルD，E
—意識調査第3因子「ダイエットに対する諦め意識」の因子得点による比較—

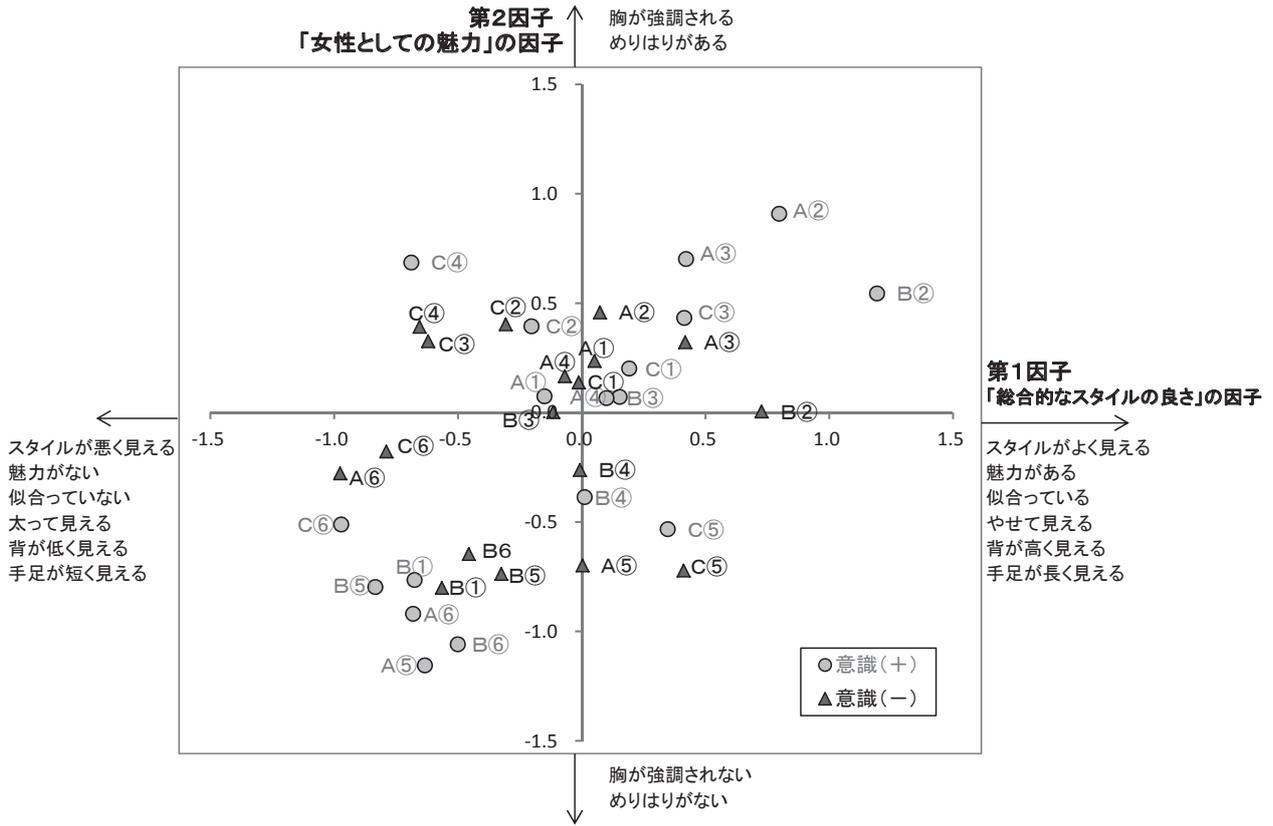


図4-1 因子得点の分布図（画像評価，第1因子と第2因子）モデルA～C
—意識調査第4因子「ふくよか体型の肯定」の因子得点による比較—

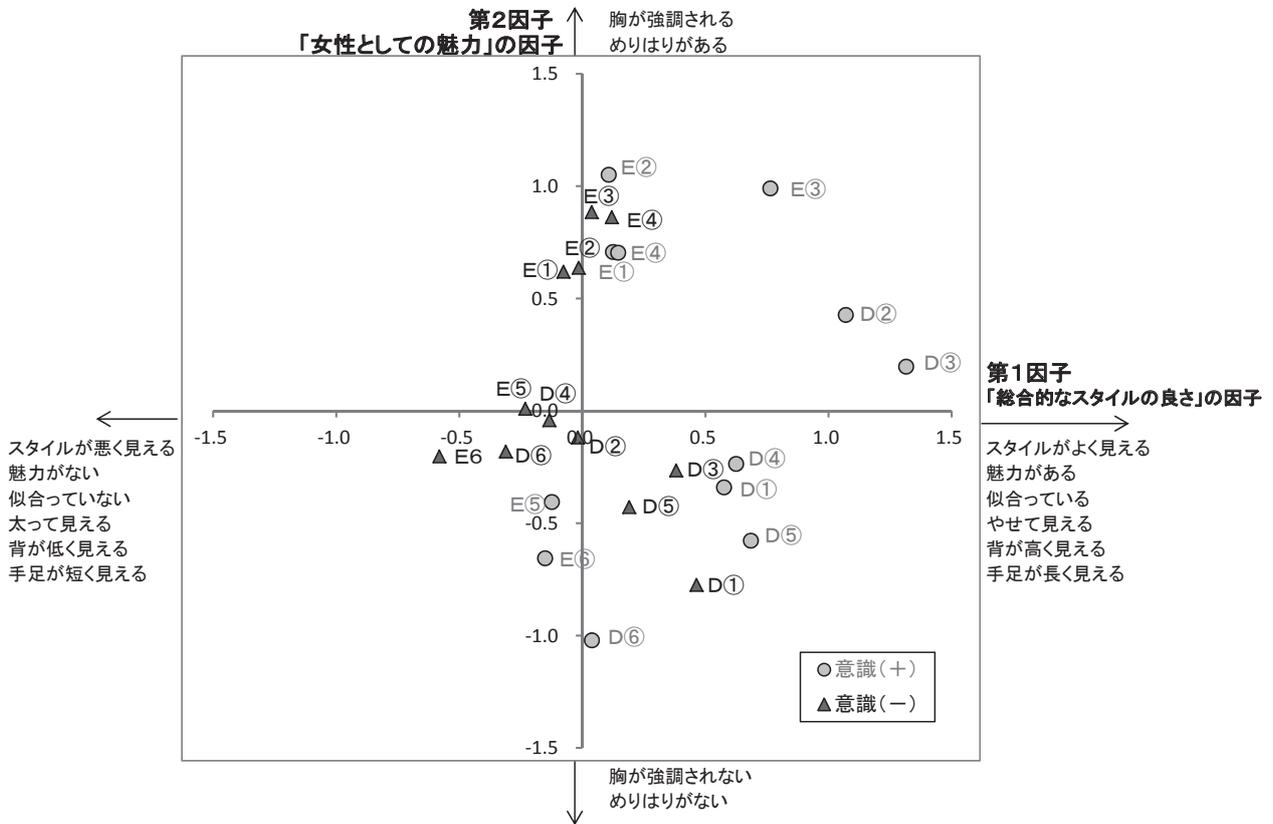


図4-2 因子得点の分布図（画像評価，第1因子と第2因子）モデルD, E
—意識調査第4因子「ふくよか体型の肯定」の因子得点による比較—

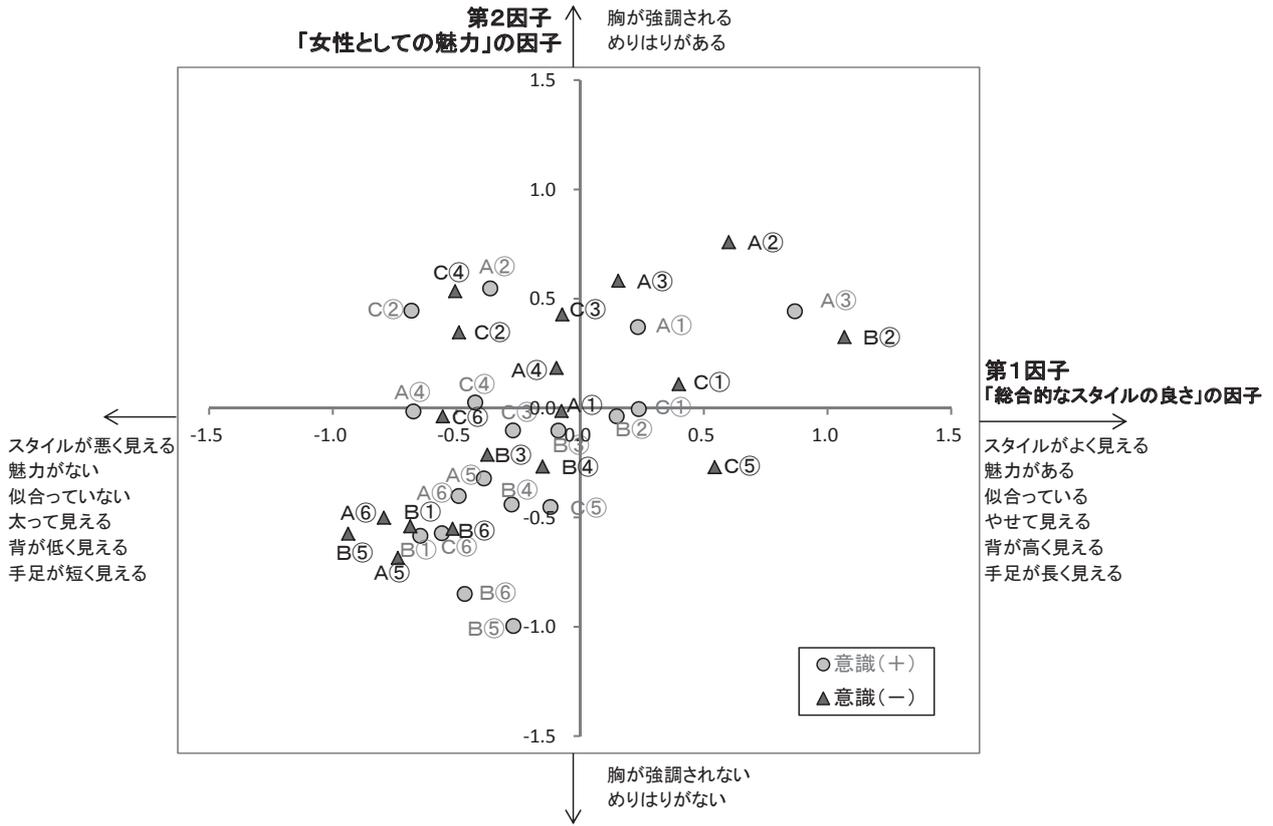


図5-1 因子得点の分布図（画像評価，第1因子と第2因子）モデルA～C
—意識調査第5因子「体型への満足と自信」の因子得点による比較—

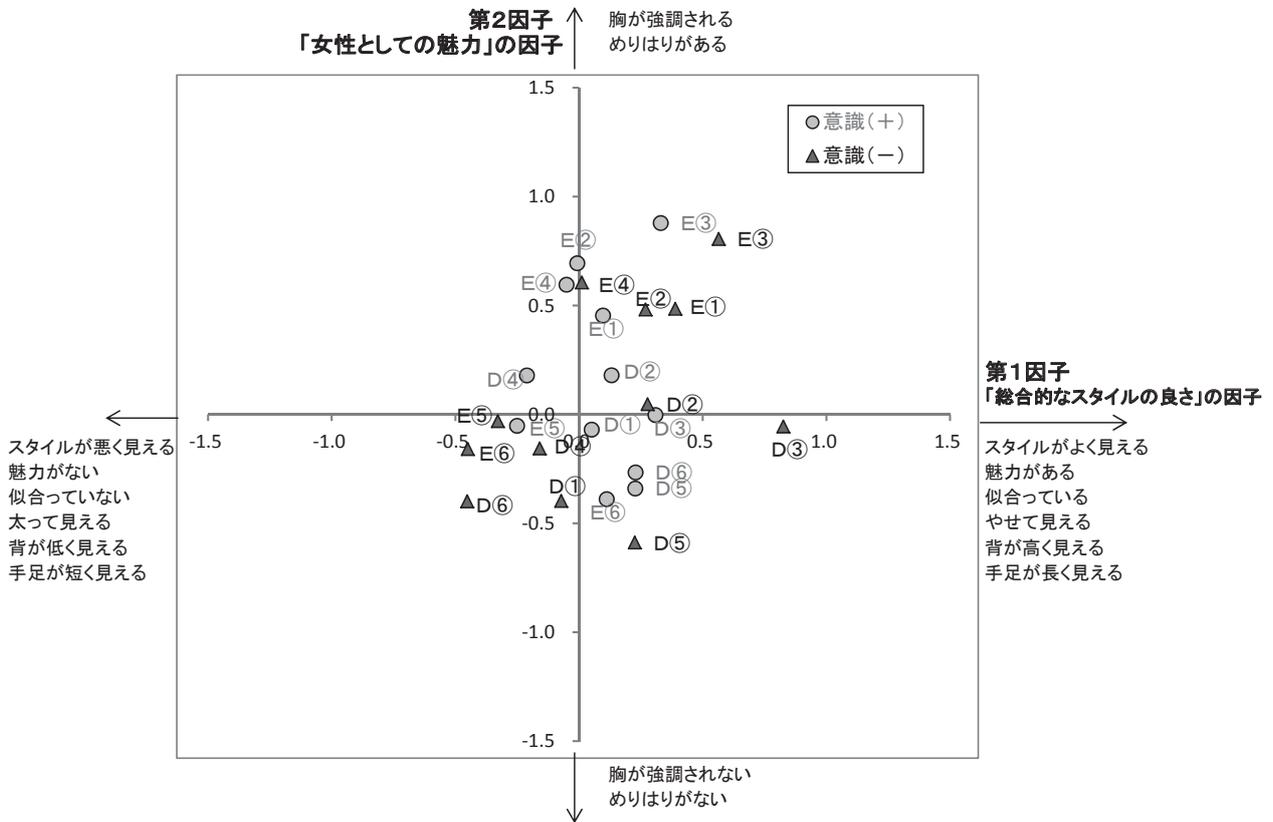


図5-2 因子得点の分布図（画像評価，第1因子と第2因子）モデルD，E
—意識調査第5因子「体型への満足と自信」の因子得点による比較—

子が高く、これらの画像について「スタイルがよい」と評価している。服②と服③は胸が強調されるデザインで、上肢の露出が多い服装であり、服④は白一色の膨張色とパフスリーブデザインといった、3画像とも身体を太く見せてしまうデザインの要素が含まれている。しかし基本的に、モデルDのような長身で痩せ体型の女性の場合、どのようなデザインの服を着用しても、第1因子は高くなる傾向がある。それにもかかわらず意識が異なる被験者間で評価に差が生じたということから、意識(+)のふくよか体型を肯定する女性にとっては、これらの画像は充分許容範囲であるのに対して、意識(-)の痩せ志向が強い被験者にとっては、少しでも太く見えるデザインの服装は否定の対象となることが明示されたといえる。画像E③の結果に関しても、同様の意識の違いが原因と考えられる。

5) 「体型への満足と自信」と画像評価の関係

図5-1、図5-2は意識調査の第5因子である「体型への満足と自信の因子」と、画像評価との関係を表した分布図である。意識(+)と(-)の被験者間に有意差が見られた画像は、A②(第1因子)、A③(第1因子)、B②(第1因子)、C④(第2因子)、C⑤(第1因子)、C⑥(第2因子)であった。

画像A②は意識(-)の被験者の方が第1因子が高い。すなわち、自分の体型に自身がない被験者の方がA②の服装を「スタイルがよい」と評価している。これは、画像B②についても同じ傾向を示している。服②は胸元と上肢が露出するキャミソールタイプのデザインであり、またロング丈のシルエットが縦長効果を与えるため、標準体型や痩せ体型のモデルが着用すると、より身体を細く、且つ背を高く見せることができる。意識(-)の被験者は現状の自分の体型に不満を持っており、もっと痩せたいという願望が強い。そのため、痩せ体型のモデルがさらに細く見える服装を好むと思われる。

画像A③はA②とは反対に、意識(+)の被験者の方が第1因子が高い。すなわち、自分の体型に自身がある被験者の方が、A③をスタイルがよいと判断していることになる。A③の着用者は標準体型のモデルであり、服③は前述の通り、バランスがよいシルエットを作ることができる服装である。客観的に見ると、A③は全画像の中で最も理想的な体型を作り出していると思われる。したがって、自分の体型に自信がある意識(+)の被験者にとっても理想的な服装であると評価されたと考えられる。ところが、体型に自信がない意識(-)の被験者から見ると、胸元のフリル飾りでボリュームが出るA③は、「痩せて見えない服装」という評価が高くなったので

はないだろうか。一般的で標準的なシルエットは理想の体型ではなく、意識(-)の被験者にとっては、「細すぎる」くらいの体型を実現できる服装がスタイルがよい服装ということなのであろう。

画像C④とC⑥は意識(-)の被験者の方が第2因子が高く、これらの服装を「胸が強調されてめりはりがある」と評価していることがわかる。被験者の女子学生にとっては、胸が強調される服は太って見える服と捉えられる傾向がある。服④は上半身は腹部までフィットしており、肥満体型のモデルCが着用すると胸に横ジワが生じてしまい胸の大きさが強調される。またC⑥は総プリーツ加工のワンピースのため、身体の凹凸が服表面に反映されてしまう。その結果、体型に自信がなく痩せ願望が強い意識(-)の被験者の第2因子が高くなったと考えられる。

4. まとめ

女子大生を対象に、体型とダイエットに関する意識調査を行った。また、30種の着用画像について、視覚官能評価を行い、意識調査の結果との関係について考察を行った結果、以下のことが明らかとなった。

(1) 「痩せ願望と理想体型の固定概念」と画像評価の関係

「痩せていること=美しい」という意識が強い被験者は、ゆったりとした、身体のラインがわかりにくいタイプの服や、胸の大きさを装飾で隠すことができる服装に対して、「スタイルがよい」と評価している。

(2) 「他人意識(評価・体型比較)」と画像評価の関係

自分と他者を比較し、他人の評価を気にする被験者は、痩せ体型のモデルについては、身体の細さを隠す服装に対して、「スタイルがよい」と評価する傾向がある。これは自分よりも細く見える女性に対する嫉妬心から、自分よりも太って見えて欲しいという願望の表れではないかと考える。

(3) 「ダイエットに対する諦め意識」と画像評価の関係

「自分はダイエットをしても無駄である」という意識が強い被験者は、服装によって身体を細く見せようとするため、ゆとり量が多くシルエットがわかりにくいタイプの服装に対して高い評価を示した。

(4) 「ふくよか体型の肯定」と画像評価の関係

ふくよか体型を肯定する女性被験者は、肥満体型モデルの、服装によるスタイルの違いを詳細に見分ける能力を持っている。また、ふくよか体型を肯定する被験者と否定する被験者とは、長身痩せ体型モデルが、太く見える服を着用することに対して、評価に違いが見られた。

（5）「体型への満足と自信」と画像評価の関係

自分の体型に自信がない被験者は、痩せ体型モデルがさらに細く見える服装に対して、高く評価する傾向がある。反対に体型に自信がある被験者は、細く見えることよりも、客観的に見てバランスがよい服装に対して、評価が高いことがわかった。

おわりに、アンケートにご協力いただいた皆様へお礼を申し上げます。

注

1) 実際の画像官能評価はカラー写真を用いて行った。カラー画像は前報（三木等2013）を参照。

2) 前報（三木等2013）において、女性にとって胸が大きい体型は、必ずしも理想体型ではないということが明確になっている。

文献

三木幹子, 植木由香, 池田並穂, 本永恵理華, 「女子大生の体型と着装に対する意識と実態—女性と男性の理想体型とダイエット意識の比較」, 『広島女学院大学生生活科学部紀要』, 第19号, pp. 1-15, 2012

三木幹子, 植木由香, 池田並穂, 本永恵理華, 「女子大生の体型と着装に対する意識と実態（第2報）—体型と服種による印象変化—」, 『広島女学院大学生生活科学部紀要』, 第20号, pp. 17-32, 2013